

冬枯れに強く

あらゆる用途に多収をお約束する

雪印育成オーチャードグラス

フロンティア

山下 太郎

フロンティアはソビエトウクライナ地方のオーチャードを育種母材として戦前に導入し、雪印種苗がヘイキングを育成し、その後耐寒・耐病・多収を目標に更に改良した合成品種です。

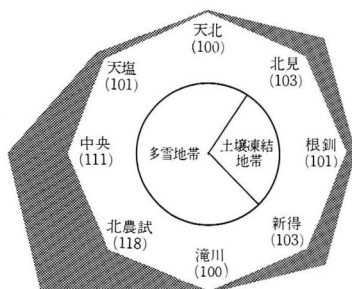
フロンティアは採草・放牧双方の利用にすぐれた特性と多収性を誇る、中晩性兼用型の優良品種です。

フロンティアは北海道・東北各県の優良奨励品種、更にOECD登録品種として今では世界的に認められた優良品種です。そのすぐれた特性を東北・北海道での試験成績を中心にご紹介いたします。



◎フロンティアの多収性

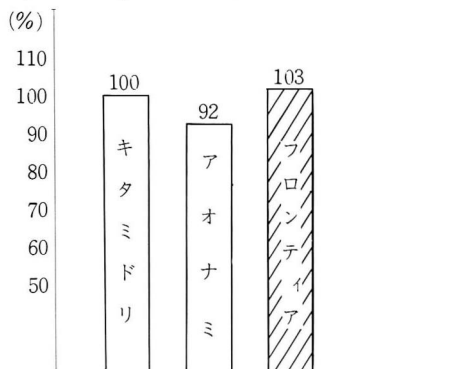
(北海道内 8 農試の成績 昭和44～47年)



フロンティアの3カ年合計乾物収量を各農試毎にキタミドリに対する比率(増収比率)で示すと左図の通りである。

- 多雪地帯、土壤凍結地帯いずれにおいても多収である。
- なおキタミドリは(北海道在来種を北農試で改良した)北海道優良奨励品種である。

(東北 3 県畜試の成績 昭和46～47年)



合計収量の3県平均値の比率

◎フロンティアの放牧利用性

(雪印種苗(株)札幌研究農場疑似放牧多回刈成績 昭和44～45年)

品 種 名	2カ年(各番草合計) 生草重 (kg/a)								マスハーディ対比 (%) (季節生産性)						
	I	II	III	IV	V	VI	合計	I	II	III	IV	V	VI	合計	
放牧型品種															
フィロックス	90	277	181	122	118	187	975	65	94	98	103	109	121	98	
マスハーディ	139	294	185	119	108	154	999	100	100	100	100	100	100	100	
ドリーゼ	117	219	196	101	116	131	880	87	74	106	85	107	85	88	
フロンティア	157	287	173	143	136	157	1,053	113	98	94	120	126	102	105	

- 放牧地に要求される特性として季節生産性の平均化があげられ、その点ではフィロックスが最もすぐれている。しかし夏以降の草量(絶対量)確保の点では再生力旺盛なフロンティアに勝る品種はない。
- 尚、マスハーディは十勝、根釧、北見地域限定、フィロックス、ドリーゼは道央、道南、天北地域限定の放牧型奨励品種である。